



福谷章子のまちづくり通信

2011年10月号(平成23年10月28日発行)
〒266-0031 千葉市緑区おゆみ野3丁目40-8 河野ビル213号
e-mail: fukutani2903@gmail.com
ブログ: <http://fukutani.blog.ocn.ne.jp>

編集・発行 千葉市議会議員 福谷章子(未来創造ちば)
tel&fax 043-312-2903
ホームページ: <http://fukutani-office.com>
ツイッター: <http://twitter.com/shoukosan>

防災は公助共助自助が必要

いざという時、あるいは想定を超えた大災害に向けてわたしたちはどのような備えが必要でしょうか。東日本大震災以降、地域では防災への関心が高まり、防災計画作りや組織作りへの機運が高まっています。そういった中で、気をつけなければならないと思う点が2つあります。一つは、「計画が想像力を欠く机上の空論となりがち」なこと。覚えきれないほど細かなマニュアルが、いざという時に役に立つとは思えません。もう一つは、「行政がやってくれるという根本的な依存精神に基づいてはいないか」ということです。防災対策は、行政が用意する「公助」、地域で助け合う「共助」、各個人で準備する「自助」の3つが噛み合っ

てなされるべきではないかと思ひます。

【見直しされている千葉市の防災計画】

千葉市では、中央防災会議で想定した東京湾北部地震の「M7.3 規模の地震が今後30年以内に70%の確率で発生する。千葉市域の避難所生活約20万人」を基に地域防災計画を作っていました。3.11を体験して見直しをしています。千葉市の場合は美浜区の液状化と帰宅困難者が想定外でした。津波についても想定されていましたが、さらなる見直しを行なっています。

【防災対策は市長直轄のポジションへ】

千葉市では、防災対策課が市民局から市長直轄のポジションに移るという組織替えをし、地域防災計画を見直しているところです。議会でも、危機管理防災対策特別委員会ができて調査研究をしています。今回のような大災害が起きて、私たちは防災計画をマニュアル化し、想定外も想定して徹底的な対策を立てようとしています。もちろん、公である行政はその取り組みをするべきです。

【情報伝達の課題】～日頃のつながりと信頼関係が大事～

先の大震災では、情報の伝達体制について課題が残りました。発災後、電話やメールが不通になり、防災無線もうまく機能しませんでした。どこで何が起きているのかを的確に把握することと、正確な情報をいかに伝えるかについては重要なテーマです。私は避難所と各区の防災対策本部がデジタル無線で情報共有を確実にし、避難所から個人へは、機械に頼らない手段をフル活用して隅々まで伝わる工夫をすることが必要ではないかと思ひます。広域の防災無線だけでは全てが伝わると思いません。人から人への丁寧な伝達が地域の防災対策の基本となるのではないのでしょうか。たとえばクチコミ。日頃のつながりと信頼関係があれば、デマにはならないでしょう。他にも、壁新聞や手書きの広報の回覧。これらは日頃のチームによる活動や向こう3軒両隣のような地域のつながりが不可欠なのです。

【避難所の役割は？】

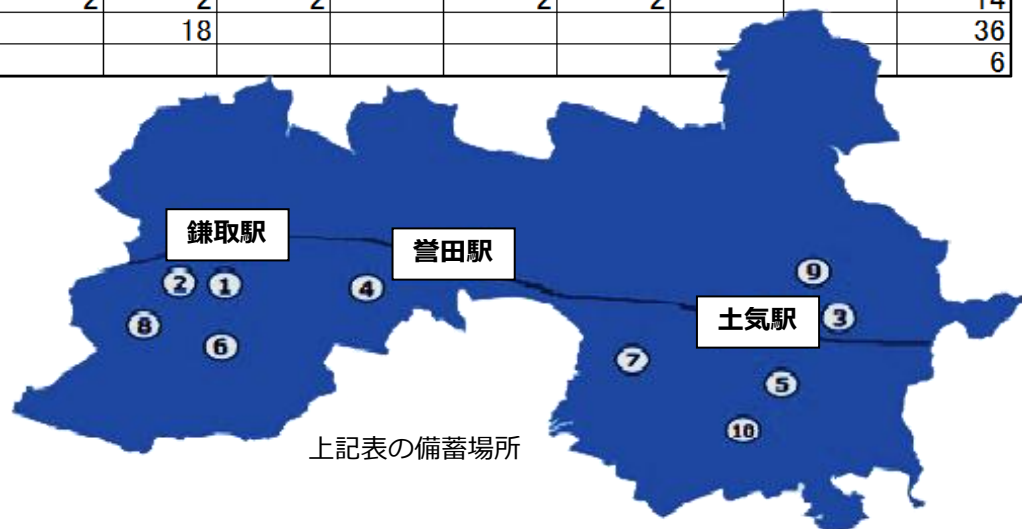
現状の避難所構想は、いかにも現実離れしていると感じます。「避難所になる小学校には地域全員が押し掛ける」という妄想に近い想定をしながら、「避難所ごとの避難訓練」という発想が、今までにあまりなかったからです。

まずは、「自宅が崩壊しても敷地が空いていればテントを張ってでもそこに暮らした方が自由である」という前提に立つべきだと思います。避難所は、そういった生活のサポートができる拠点施設であるという捉え方をすべきではないでしょうか。避難所は、寝泊りする場を失った時の一時的な生活場所であると同時に、その場は何とか確保した人たちの情報&食糧供給サポートセンターとなる。つまり従来の宿泊場所というイメージに加えて、情報や食料が集まるセンターであるという意識付けが必要であり、いざという時には小学校校区ごとに1カ所に住民の声や要望が集約できるような仕組みを作っておくべきだと思います。となれば、「いざという時にそこまで来られない」のはどんなケースかを研究し、それらを具体的に地域で把握しておくことが必要でしょう。誰がどのように対応するかも含めてです。現在、千葉市では避難所運営委員会を設ける準備をしているとのこと。避難所の役割、そこで果たすべき機能に加えて、障害のある人や子どもたち、高齢者や女性などの視点を避難所運営には是非とも加えてほしいと思ひます。

【緑区備蓄品整備状況】

2011年6月現在

備蓄品	①緑区役所	②緑消防署倉庫	③土気市民センター	④菅田小	⑤土気南小	⑥泉谷小	⑦越智小	⑧有吉小	⑨土気小	⑩大椎小	区合計
食料	乾パン(食)	1,680	7,440	1,680					2,400	2,400	15,600
	アルファ米(食)	3,750	13,950	7,950					2,500	2,500	30,650
	アルファ米(お菓子)	950	2,850	4,350							8,150
	クラッカー(食)	3,570	6,930	8,260	2,100						20,860
タオル(枚)	400	1,500	1,000	200	200	200	200	200	200	200	4,300
毛布(枚)			500	200	150	70	200	200	200	230	1,750
給水袋(枚)	400	600	1,000	200	200	200	200	200	200	200	3,400
防水シート(枚)		310	40	30	30	30	30	30			500
簡易組立トイレ	和式				1	1		1			4
	洋式				1	1	1	1	1	2	7
担架(台)		18	2	2	2	2	2	2			30
投光器セット(組)	発電機		11	1	1	1	1	1	1	1	19
	ライト		11	1	1	1	1	1	1	1	19
	コード		11	1	1	1	1	1	1	1	19
	三脚		11	1	1	1	1	1	1	1	19
リヤカー(台)		14	1	1	1	1	1	1	1	22	
はしご(本)		1		1							2
水槽(台)		2	1	1	1	1	1	1	1	1	10
チェーンソー(台)		12		1	1	1	1	1	1	1	19
エンジンカッター(台)		8	1	1	1	1	1	1		1	15
強力ライト SUM×6			50	5	5	5	5	5			80
応急工具セット(組)			1	1	1	1	1	1			7
つる(はし)本			15	12	3						30
拡声器	SUM2×6		32	3	3	3	3	3			50
	(20L)		2	2	2	2	2	2			14
燃料タンク	(10L)		1								1
			4	2	2	2		2	2		14
ワンタッチトイレ(台)			18								18
発電機(台)		5	1								6



上記表の備蓄場所

今回の東日本大震災では、「経験に基づく日頃の言い伝え」、「身近な人々の支え合い助け合い」それらが何よりも命を守ることに役だったのではないのでしょうか。そのためには、地域にすむ私たち一人一人が日頃から顔見知りになり、姿が見えない時には安否を気にかけるような関係を育んでおくことが大切ではないかと感じています。それが、共助の基本ではないのでしょうか。国や自治体が行う公助は、マニュアルをしっかりと作るのは当然です。一方、地域での共助は、最小限のルールは必要ですが、徹底的なマニュアルなどはいざという時には役に立たないのではないかと感じます。それよりも、人間ならではの本能を發揮したとっさの判断ができるような地域の土壌を耕すことが大切ではないのでしょうか。それは、融和、信頼、許し合いの土壌ではないかと感じます。そうであるとしたら、地域での共助による防災対策は、何をどこまで決めておく必要があるか。その際には、子ども、高齢者、障害のある人、女性など、地域に日頃からいる人たちの視点に立った防災計画が重要なのではないかと感じます。

【職員も？先生も？被災者】

いざという時には、市の職員も避難所である学校の先生もすべて被災者となります。その上で、職務上の役割を果たすのです。そういったことに思いを馳せれば、自らは何ができるか、そして地域では何ができるかをまず考える必要があります。それでも地域力では及ばないことは何かをしっかりと捉え、それらについては公として備えるよう積極的に提案していくべきです。

【つながる】

いざという時の支え合いは、地域に存在する様々な主体、つまり、個人や団体です。団体であれば、自治会のような地縁団体、保護者や青少年育成委員会のような子縁団体、コミュニティづくり懇談会のように活動団体を結ぶ結縁団体、ボランティア団体のような福祉縁団体、サークルやグループのような楽しい趣味や活動で結び付いている楽縁団体など、普段は目的別に活動している主体がつながり合うことが地域の防災力に結びつきます。そういった地域間、地域と行政、行政間をつなぐのが、議員に課された役目でもあります。

3. 11からもう7か月が経ちました。現地の復興がままならず先行き不透明な中、私たちは犠牲になられた方々のためにも、この震災で起こったすべての事を無にはできません。今回各地で被災した2家族の経験を伺ってみました。

津波で被災した塩釜市の家族 (30歳台の大人2・小学生2・幼児1)

★一番困ったことは何ですか？

→飲み水の確保です。あいにく買い置きがなく、2リットルのお茶が2本ありましたが、給水車が3日後に到着するまでそれを家族で分け合って飲んでいました。また、給水車が来ても長時間並び、水の入った重いポリタンクを自宅まで持って歩くのがとても大変でした。2リットルのペットボトルで小分けに入れて運んだほうがラクでした。

★避難所はどうでしたか？

→自分たちより被害のあった人や、お年寄り等を思うと、申し訳なくて入れなかったです。家が無事だった友人宅に避難させてもらったが、避難所にいる人たちでさえ支援物資が足りず食事を取れない状況が続いたので、避難所に入っていない自分たちは食料の配給がもらえませんでした。

★食事は？

→食べられそうな物を皆で持ち寄って分けあって食べました。しかし、どんどん食べられる物が少なくなっていくととても不安でした。調理という調理はできないので、温め直しには石油ストーブが役立ちました。

★今回の経験から、今後のために備えているものはありますか？

→飲み水と、生活用水。また、そのまま食べられる缶詰やレトルト食品を家族人数×数日分。とりあえず、これだけは必要だと思います。そして、アウトドア用品を少しずつ買い足しています。

液状化現象で被災した香取市の家族 (60歳台大人2人)

★一番困ったことは何ですか？

→トイレです。夫だけ小便は庭で済ませ、トイレの水は田んぼで汲んで流しました。しばらくしたら公園に簡易トイレができましたが、徒歩で5分掛かるので、夜は袋にしていました。

★断水時をどのように乗り切りましたか？

→5年保存可能のペットボトルの水を1ケース備えていたので、とても助かりました。それと、浄水器のタンクに溜まっていた水もあったので、何とか足りました。しばらくしてから市役所に給水車が来るようになりましたが、歩いて40分掛かるためガソリンが不足しているなか、車を使うしかありませんでした。近所の人で車の運転ができない人はもらいに行けなかったので、移動式給水車でまわってくれと助かるのに、と思いました。

★食事は？

→幸いにもガスが使えたので、即席ラーメンやうどんを食べていました。お米は研ぐ必要のない無洗米を、近所の人に譲ってもらいました。

★今回の経験から、今後のために備えているものはありますか？

→今回、一番困ったトイレ対策のために、固まる携帯用トイレを30個常備しています。また水を必要以上に使わないようにするため、紙皿や紙コップ、そして水は2リットルのペットボトルで3ケースを常備しています。食料は無洗米と缶詰、乾物のそばやラーメン、うどんをたくさん用意してあります。

【水と食糧の問題】

～3日分は自分たちで備えよう～

先日、防災出前講座に参加した際、今回は井戸水がうまく使えなかったという反省が出ました。「試飲したら腹下しをしてしまった」という報告もありました。緑区災害時備蓄数をみてもわかるように、いずれにしても家族3日分の水は、自助として備えておきたいものです。もちろん食糧も同様です。

【家に残された家族のために・・・帰宅困難者の課題】

10月9日夜のNHKで、3月11日の帰宅困難な状況について特集番組を放送していました。「まずは慌てて帰らない」ことが、通勤者自身や被災エリアのためには安全なのです。そのためには、地域に残された家族の安全が確保され確認できることが必須条件です。となると、おのずと地域防災の要点が定まります。日ごろから残された災害弱者＝子どもたち、高齢者、障害のある人たちの避難をどのように地域がサポートするか、ということがわかっていると安心できますね。

一方、今回は5600人ほどの帰宅困難者を千葉市内の施設でも引き受けました。鉄道駅最寄りの公共施設は、帰宅困難者を受け入れることを前提とした計画づくりをするべきであり、地域としてもその対応を考えておく必要があります。

～議会情報～ 依然として厳しいけれど ◎減り始めた千葉市の借金◎

財政状況が厳しい折の予算執行であり、22年度はとにかく無駄な支出を抑え、市民生活においては、何とか頑張ってもらえそうところをカットしたというのが現状です。それにより、どうにかこうにか3億3300万円の黒字となりました。しかし、それにはカラクリがあって、本来ならば国民健康保険事業特別会計の不足分を一般会計から繰り出すところを、そうしなかったために国保は119億円のマイナスとなり、23年度から前借して清算（繰り上げ充用）したのです。要するに、一般会計と特別会計をひっくるめれば、千葉市は結局赤字（連結実質赤字比率2.87）なのです。

では「財政運営がズサンだったの？」というのと、そうではなく、将来負担比率という、将来返済すべき借金は減少しているのです。市民の皆さんにはいろいろな我慢を強いてしまったけれども、苦しい中でも地域周産期母子医療センターを整備したり、介護体制を充実させたり、子ども医療費も拡大しています。教育環境も体育館の耐震補強や校内LANの整備で情報教育に力を入れました。中小企業の金融対策も強化するなど、無い袖を頑張って振りながらも財政再建の目的は守っています。そのような観点から、未来創造ちばでは22年度決算を承認いたしました。

・・・・・・・・みなさまのご意見・ご要望をお寄せください・・・・・・・・